

年金生活シミュレーションでわかった

貯金1000万円でも

やりくりでちやいます

「老後のお金、いくら貯金が必要?」。そんな不安はありませんか。
「実は、いくらあれば安心かという話に、意味はありません」と、
ファイナンシャルプランナーの畠中雅子さんは指摘します。
年金生活での貯金を取り崩すシミュレーションとともに、
今ある貯金額に合わせて、やりくりを考える術をお伝えします。

取材・文：竹上久恵(編集部)
シミュレーション制作協力：浜田裕也

69~95才まで貯金を
取り崩せる額

貯金2000万円なら、
年間38万円

貯金1000万円なら、
年間10万円
まで大丈夫!

どちらの場合も同じ収入と特別支出があると設定。
結婚祝いなどの特別支出を取り置いた上で
貯金から取り崩せる額を算出しました。



※介護度が上がり、年間20万円ずつ介護費用を支出するように想定しています。

60歳の時点で、貯金が1000万円以下の人から、老後資金を3000万円まで貯める方法をよく聞かれるという畠中雅子さん。「年金生活は、お金が増えない時代の始まりです。そもそも現役時代にも貯められなかったのだから、貯金を増やすことは諦めましょう。運用で失敗して貯金が底をついたら本末転倒です」と断言します。では、どうすればいいのでしょうか。
「今ある貯金が、95歳まで尽きない、いい赤字」で、うまく取り崩していく、生活設計

をしていきましょう」

夫亡き後の妻にある、「ひとり期」のリスク

上のグラフをご覧ください。貯金が2000万円の場合と1000万円の場合の2パターンで、年齢差2歳の夫婦の年金生活をシミュレーションしてみました。どちらも同じ収入、同じ特別支出があるという設定です。

夫が65歳で退職し、年金生活に入ると、収入は激減します。63歳の妻が、老齢基礎年金をもらうまでの2年間は辛抱が必要です。この時期は、年金収入に合わせた生活を目指しましょう。妻が65歳になると年金収入が少し増えます。このときにあらかじめ考えておきたいのが、夫を亡くした後の妻に待ち受けている「ひとり期」のリスクです。

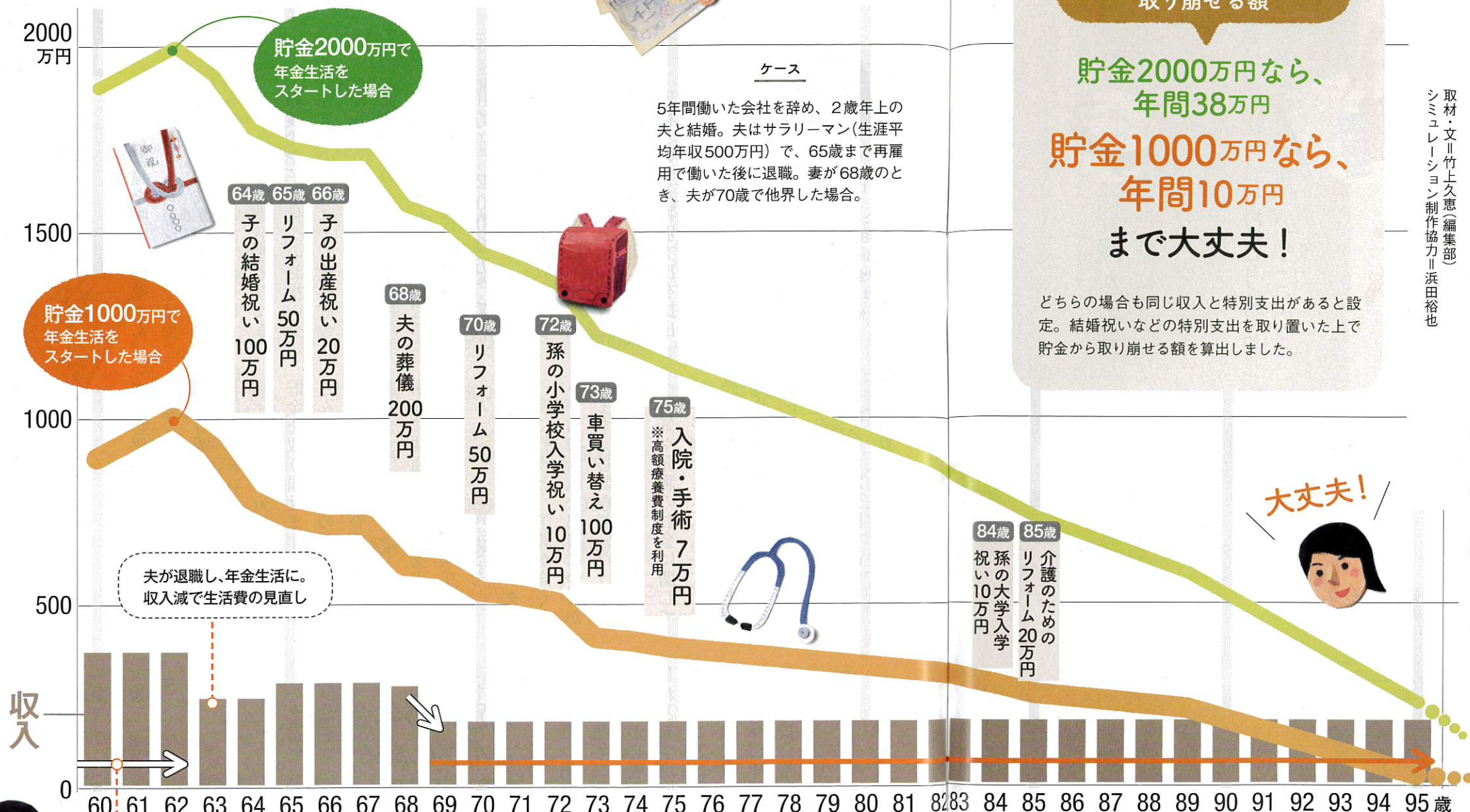
「夫を亡くすと、収入が半減するケースも。でも、ひとりになっても固定資産税や車などの固定費、親戚付き合いが減らないため、悪い赤字に転落する家庭が多いので

毎年貯金はどのくらい減っていくのか、シミュレーションしました



ケース

5年間働いた会社を辞め、2歳年上の夫と結婚。夫はサラリーマン(生涯平均年収500万円)で、65歳まで再雇用で働いた後に退職。妻が68歳のとき、夫が70歳で他界した場合。





年間の赤字を知れば 生き方が決まります

「す」と警鐘を鳴らす畠中さん。このシミュレーションでは少し早めに、夫が70歳で亡くなる想定をしています。そして、あらかじめ出費が考えられる、葬儀代や子や孫へのお祝い金、住まいのリフォーム代を貯金から取り置きました。すると、95歳までの「ひとり期」に年間貯金を取り崩せる額は、貯金1000万円の場合10万円、2000万円では38万円に。

この額内で、年金収入でまかなえない生活費に加え、固定資産税、自動車税、旅行代、三回忌などの供養代、墓の管理料といった特別支出を捻出



畠中雅子さん

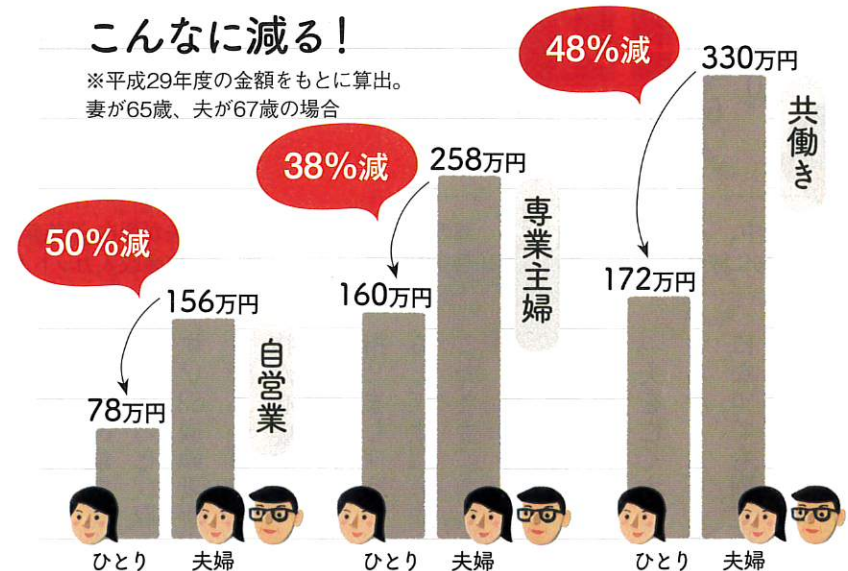
はたなかまさこ◎1963（昭和38）年生まれ。ファイナンシャルプランナー（CFP®）。『貯金1000万円以下でも老後は暮らせる!』（すばる舎刊）他、著書は60冊を超える。

する必要があり。シミュレーションで取り置いた特別支出分を考慮しなければ、「1000万円の貯金の場合、年間30万円前後まで貯金を取り崩せます」と畠中さん。特別支出の額は、貯金額に合わせて調整する必要があります。そのとき、多くの家庭に共通する特別支出として、注意したいのが「リフォーム」での「浪費」です。「退職時など貯金のピークに一度に行くと、予算が高くなりがちで無駄な出費につながります。必要な部分だけ、何回かに分けて行いましょう」病気や介護のお金に関して「予測できないのだから、恐れても仕方ないです」とバツサリと斬る畠中さん。シミュレーションでは、介護度が上がる90歳からは、介護費用として毎年20万円支出するように計算しました。

ケース別

死別後の年金額は、こんなに減る!

※平成29年度の金額をもとに算出。
妻が65歳、夫が67歳の場合



※夫婦ともに20歳～60歳まで、国民年金の保険料を納付。年金額は、それぞれ78万円。
※夫、22歳～60歳まで厚生年金保険に加入。年金額は夫200万、妻58万円。
※夫婦ともに、22歳～60歳まで厚生年金保険に加入。年金額は夫200万、妻130万円。

年金月収別

貯金1000万円で やりくりできる生活費目安

年金月収	8万円	12万円	16万円
食費	20000円	27000円	36000円
日用雑貨	5000円	5000円	5000円
水道・電気・ガス代	12000円	12000円	17000円
通信費	8000円	10000円	12000円
教養娯楽費	2000円	5000円	6000円
レジャー費	3000円	5000円	7000円
被服費	3000円	5000円	7000円
医療費	5000円	6000円	6000円
交際費	3000円	5000円	8000円
住宅費 (ローン、管理費、修繕積立金など)	15000円	15000円	15000円
生命保険料・損害保険料	3000円	6000円	10000円
税金・社会保険料など	5000円	6000円	10000円
その他雑費	3000円	13000円	21000円
合計額	87000円 (▲7000円)	120000円	160000円

やりくりポイント

通信費の見直しが一番簡単な節約法です。3000円台になる格安スマホへの乗り換えがおすすめ。

やりくりポイント

人との交流は大事ですが、親戚友人との付き合いで自分の身の丈に合わない出費には要注意。

やりくりポイント

家計を見直すなら、1週間単位で予算を決め、毎週赤字を修正していく方法がおすすめです。

葬儀代が 不安な方におすすめ

少額短期の保険

畠中さんおすすめの少額短期保険を紹介します。

■ SBIいきいき少額短期保険

「SBIいきいき少額の死亡保険」

84歳まで申し込み可能。手頃な保険料で、保障は90歳まで継続します。
問い合わせ先 ☎0120-45-1234

■ NP少額短期保険

「葬祭費用あんしんプラン」

健康状態にかかわらず入院していなければ、満79歳まで加入、99歳まで継続可能です。
問い合わせ先 ☎0120-35-4124

■ あんしん少額短期保険

「保険金固定型葬儀保険『みんなのキズナ』」

保険金の範囲内で提携葬儀社で葬儀を行い、余ったお金は遺族に遺せます。
問い合わせ先 ☎0120-685-336

「年間の赤字を知れば、それからの生き方が決まります。不安なく楽しむためにも、家計の真実を見てみて」
貯金が見えないとわかった場合は、まずは特別支出や固定費を見直し、さらに家計の節約に取り組みましょう。「上表の年金額ごとの生活費目安を参考に、自分の家計のどの項目の出費が多いのか比較すると節約に取り組みやすいですよ」と畠中さん。
貯金が見えない場合、「住み替え」を行うこともひとつの

手段です。「持ち家なら、家を売れば貯金が増えます。そして年金でまかなえる施設に住み替えるのも手です。年金がかなり少なく、貯蓄もなければ、生活費の一部を生活保護として受け取れる可能性もあります。制度を正しく知ること、生活設計では大切です」
また貯金が少ない人は葬儀代を貯金で残すよりも、少額短期の死亡保障付き保険に、お守りとして加入することを畠中さんは勧めます。

ハルメク

h a l m e k

//
2017

richio

「もしも」に備える
年金生活の

この一冊でもう安心!

【海外取材】パリの60代は自由ですてき!

日野原重明先生の名言集／舌でわかる病気のサイン